

電波利用環境委員会報告(案)概要

～CISPRサンフランシスコ会議の審議結果について～

令和5年1月13日
電波利用環境委員会
CISPR I作業班

Ⅰ小委員会：情報技術装置・マルチメディア機器及び受信機の妨害波に関する規格を策定

CISPR 32 (マルチメディア機器の電磁両立性 -エミッション要求事項-) 第3版発行に向けた検討について

1) 背景と課題

CISPR 32は令和元年10月に第2.1版が発行された。その後新たに提起された課題と、第2.1版発行に際して検討されたものの解決に至らなかった残課題が整理され、第3版発行に向けて以下の13項目の課題の検討が進められている。

- ① 無線電力伝送 (WPT) の許容値及び測定法
- ② 放射妨害波測定におけるEUTの電源ケーブル終端条件 (VHF-LISN関連)
- ③ 設置場所での測定法及び許容値
- ④ TVチューナポートに関する一般事項及びポート動作方法の修正
- ⑤ APD(振幅確率分布)を用いた1 GHz以上のインパルス性妨害波評価の導入
- ⑥ 衛星放送受信機の30 MHz~950 MHzの伝導エミッション要件
- ⑦ 電波全無響室及び反射箱の1 GHz以上の放射妨害波測定への適用
- ⑧ 6 GHz~18 GHzの許容値と適切な測定法
- ⑨ 無線機能付きMMEに関する適用範囲のCISPR 35との整合と測定法に関するガイダンスの策定
- ⑩ 第2.1版発行時に対応が漏れた軽微なエディトリアル修正
- ⑪ EUTの暖気運転に関するCISPR 16-2-1と整合したガイダンス文書
- ⑫ 直流電源ポートの測定法及び許容値
- ⑬ ノンインベシブ測定法の測定機器の不確かさを改善するための方法

2) 課題の解決方法

それぞれの課題に対してリーダーと主たるメンバを決めて検討を推進し、Web会議を複数回開催して議論と合意形成を進め、第3版の規格案への反映を図っている。

3) 審議結果

- ・サンフランシスコ会議を通じて、③設置場所での測定法及び許容値は情動的付則とすること、⑪暖気運転に関しては記述を追加せず現状のままとすることが合意された。
- ・一方、①WPTの許容値及び測定法、⑦反射箱の1 GHz以上の放射妨害波測定への適用など、幾つかの重要な課題が継続検討となった。

4) 今後の見通し

引き続き、サンフランシスコ会議で議論できなかった課題 (④TVチューナポート関連、⑥衛星放送受信機に関する要件) や、継続検討となった課題 (①WPT関連、②VHF-LISN関連、⑦RVC関連、FAR関連 (TFを設置して検討)) について審議が行われ、2nd CDの準備が進められる。CISPR 32第3版は2024年1月の発行を目指している。

